令和６年度　第４回小田原市社会教育委員会議概要

１　日　時：令和７年（2025 年）３月 18 日（火）14：00～15：30
２　会　場：小田原市生涯学習センター本館　第２会議室
３　委　員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、石塚委員、齊藤委員、髙橋委員、箕輪委員
４　職　員：大木文化部長、諏訪部文化部副部長、田村生涯学習課長、蓑宮生涯学習課副課長、鈴木生涯学習課副課長、遠藤生涯学習課副課長、韮澤生涯学習課担当監、一寸木生涯学習課生涯学習係長、廣瀬生涯学習課社会教育指導員、大谷生涯学習課社会教育指導員、渋谷生涯学習課主査

５　傍聴者：なし

６　概　　要

（１）開会

田村生涯学習課長が開会した。

（２）文化部長挨拶

大木文化部長から挨拶をした。

（３）協議事項

「生涯学習センター事業の現状と課題及び研究調査テーマを踏まえた検討について」資料１～５に沿って蓑宮生涯学習課副課長が説明をした。

【齊藤委員】資料について、現状から課題が分かりやすく、よく検討されておりまとまっている。
これまで担ってきた方の高齢化により育成の穴が生まれている状況がある。今後は、どの人たちを対象にしていくか、があるが、特に若年層、また中年層も含めて関与してく部分に注力していってはどうかと考えている。
キャンパスおだわら情報誌はメニューも豊富で良いものだが、申し込み方法の電話については抵抗を示す人も多い。方法の工夫が重要と考える。
中年層に対して仕掛けていくには、小田原で働いている人、起業している方を巻き込み、働いている人がやりたがる仕掛けづくりが必要である。

【木村議長】資料１の１ページにある「出会い」「継続」「つながり」「活かす」４つの検討の視点をもって、３ページにある、「学習講座、学習情報、学習相談、人材バンク」の４つの対象事業について深掘りしていくといいのかなと思

う。４つの検討の視点のうちの４つ目の「活かす」については皆さんどうか。

【齊藤委員】人材バンク事業がまさに「活かす」になっている。それも含めて良いと思う。

【髙橋委員】４つ目の「学んだ成果を活かす」支援は重要だと思う。子どもの頃選手だった子がお返しに教える側の学生ボランティアになったり、覚えたことを活かして子どもの参加を支えるボランティアになってくれたりする。そういう意味でも「活かす」は大事な視点であると思う。

【有賀委員】冊子として報告書にまとめるだけでなく、検討を反映させた事業展開を広報などで市民に届けること、地域に発信することが大事だと思う。報告書が市民にとって活用できるようにするのが良い。（木村議長も賛同）

【蓑宮副課長】現行の事業に照らして事業に反映していくのが目的なので、事業に活かすような形を考えていきたい。

【木村議長】実際に地域に発信されていない例は多くある。生涯学習側では分かっていても地域との間で距離がある。有賀委員の意見のとおり、何か良い方法で地域に発信するのが良い思う。

【箕輪委員】外から見ると、市民活動と生涯学習活動とが重複、混在している印象がある。人材バンクで言うと、各課それぞれで集約がされていないといつも思う。課ごとにやっていると人の取り合いになってしまうと思う機会があり、だとすると分野ごとに行うと良いのではないか。例えば、子ども向けのイベントについても、期間をもう少し長くするなりし、けやきのイベントしてやってもいいし、市民活動の場としてやっても良いと思う。受け手としては同じである。広がっているところを集約してみてはどうか。

【石塚委員】自分時間手帖だけではイメージがしにくい。顔が見えてこない。どういう人たちが学んでいるかわからないので、発信していくことで変わるのではないか。

どうやって生涯学習の動機付けをしていくかは大切である。子ども対象の事業については、親も面白そうだと思えるような動機付けがあると良い。子どものころによくデパートに行っていた子どもは、大人になってからもよく行くと聞く。子どもの頃からの経験が大切だと思うので、そういったところのアプローチも大切かなと思う。

【笹井副議長】地元の杉並区では「大人塾」というのがある。阿佐ヶ谷、高円寺、荻窪など、それぞれグループを作っていて、年１回の「大人塾祭り」という報告会があり、どういうことを学んだかを全体で共有している。模造紙や写真など張ったりして市民の方たちに見せて、それで面白そうだな、入ろうかな、といった動きにつながるかもしれない。冊子だけではわからない部分も多くあるので、一堂に会してイベント化して団体同士の情報共有の場つくりも一案である。

人材バンク事業の課題としては、性格や人間性も含めて、合う、合わないというのがある。また、登録してもなかなか声がかからないというのもある。情報量が少ないと行き違いが生じることもあるので、それを埋める努力、例えば、動画を作るなども良いのでないか。

持続可能性、継続性という観点では、、「愛着」を持つことが学習意欲を継続させるための原動力となっている。まずは知ること、交流することでの気づきもある。そうしたところから実践家として地域づくりの人材にもなっていく。

【木村議長】地区公民館の課題として、場所の提供として、例えば学習塾として場所を貸してお金をもらうようなことあるが、お祭りや改修の原資とするまでにはいかない。地域は地域で一生懸命やっているが、なかなかお金に結びついていかない。

【齊藤委員】継続性という話が出たが、若い人は、持続性というより単発が好きなのだと感じる。飽き性でいろいろやってみたい方もいる。人材バンク事業も、時によっては一日体験など開かれたサークルであると良いのではないか。学校のコミュニティースクールとの絡みで、学校で、例えば二部屋だけを借りて行うとか、キャンパス講師による仕掛けも良いと思う

【髙橋委員】働き方改革以降、学校と地域との関わりが薄くなりつつあると思う。学校側と地域の人たちで捉え方の違いがある。

自分時間手帖については、講師などの人を見て集まるというのはあると思う。利用が多い講座、利用が少ない講座などについてデータはあるか。

【蓑宮副課長】市に学習相談があった場合に、どういうところを紹介したのかというデータはあるが、その後どのように結びついたかについては無い。

また、「顔が見えない」といった冊子の弱点についてだが、市では、生涯学習の間口を広げ、やってみたいといった人への機会をつくるよう「キャンパス講師１日体験講座」を開催しており、実際にやっている中で、例えば今年開催の「イタリア語講座」では、先生の教え方やお人柄に触れるこ

とによって、講師が主催する教室につながっているという例がある。

【木村議長】自分時間手帖は自治会や地区公民館でも使っている。例えば手品の方など直接依頼したりしている。生涯学習課を通していないから数字としてはあがってこないかもしれない。一般の人の状況はどうか。

【蓑宮副課長】キャンパスおだわらのインターネットアクセス数が分かるようになっており、年間約１６万件とかなり見ていただいている。

【有賀委員】放課後子ども教室でもこれを利用しているが、継続的に同じような人にお願いしてしまっている傾向はある。「１日体験講座」については、資料だと、平均で概ね１講座６人程度の参加者になると思ったが、開催できなかった講座はあるか。

【蓑宮副課長】できる限り応募いただいた方の期待に沿うよう、１名でも講師の方と調整して開催しており、いまのところ、開催できなかった講座は無い。

【有賀委員】資料４の人材バンクの課題のところに「その後のフォロー・サポート体制の仕組みづくり」とあるように、一日体験だけで終わってしまうのはもったいないと思う。同じ講師による講座の紹介とか、関連講座を伝えるなど次につながる情報発信があると良いと思う。４つの視点で言えば、２番の「学びの継続支援」になるのではないかと思う。

【笹井副議長】民間の人材バンクでは、登録講師のなりすましなど詐欺まがいのものもあり、難しさもあることは知っておいた方が良い。

【齊藤委員】千葉市の生涯学習センターでは、年間 10 本から 15 本くらい、一定の予算を確保し、あとは、団体が自前で講座の企画から実施まで行うというものがある。団体が企画書をプレゼンし、委員が審査、合格した者には場所や広報のみ提供して、あとは全部やってもらうもの。小田原ならではの「郷土」など条件づけして絞れば、エントリーしてもらえかもしれないし、あるいは声をかけてみても良いと思う。ただし、予算取りが難しいという課題はあるかもしれない。１団体につきら３万円から５万円くらい。仮に 50 万円予算が確保できれば１０企画ができる。

【石塚委員】コミュニティースクールについては、各学校によって対応に差があると感じた。

【箕輪委員】コミュニティースクールの話では、土曜日のグランドや教室を使った「土曜日学校」というものもあった。また、空き教室を地域に開放している学校など学校ごとに独自性も出ているようだ。
また、齊藤委員のお話は、市民活動応援補助金と似ていると感じた。市民活動応援補助金は、自分たちの活動に向くが、生涯学習では、出口が自分の学びを活かして伝えることにあると思った。
また、1日体験講座については、全く初めての参加者が次に来るためにはその場での上手な宣伝が必要で、講師には宣伝の方法をあらかじめ伝えておく、参加者には興味があればアクセスしてくださいと働きかけるなど、講師に対するフォローと参加者に対してのフォローの両方が必要と思う。

【木村委員】地域の地区公民館にキャンパス講師が来てくれることはあるのか。

【蓑宮副課長】可能である。次回の地区公民館活動支援でお話しする予定だが、地区公民館を場所としてキャンパス講師を招いて講座を行うことに対する補助金の制度がある。

【木村議長】地域と講師のマッチングをしてもらえると、地区公民館の活動の幅も広がるし、地域としても喜ぶと思う。

【笹井副議長】三菱系列で「丸の内朝大学」というのがあり、朝7時から8時30分まで、オフィスで働く人を対象に勉強してから働くというものがある。働いている人で参加したいという人の裾野がひろがるのでないか。朝や夜など、今までやってきた時間をずらして開催するという視点もある。

【齊藤委員】宇都宮では「朝大学」をやっていた。有名な起業家に会いたいから集まるということもあるようだ。

【木村議長】　様々な意見をいただいたが、本日はここまでとしたいと思う。 それでは、本日の社会教育委員会議はこれを持ちまして閉会とさせていただく。

閉会